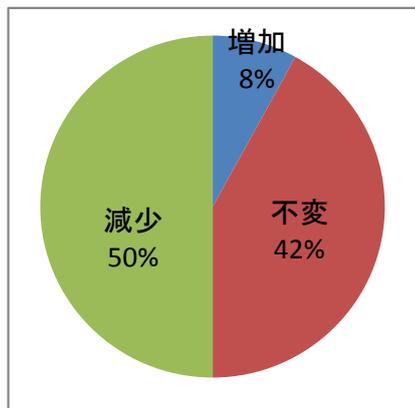


■ データから見た業界の動き

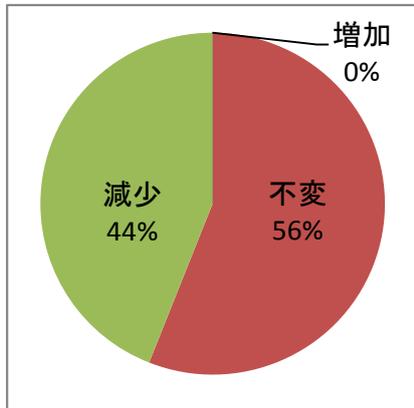
(平成25年9月分)

● 2012 / 9

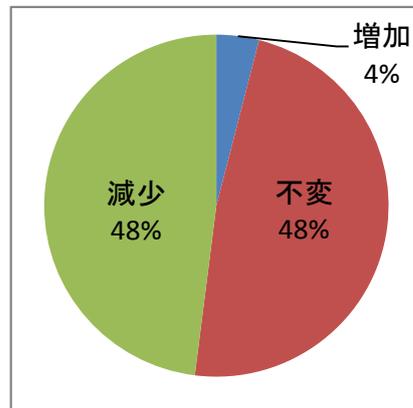
売上高 (前年同月比)



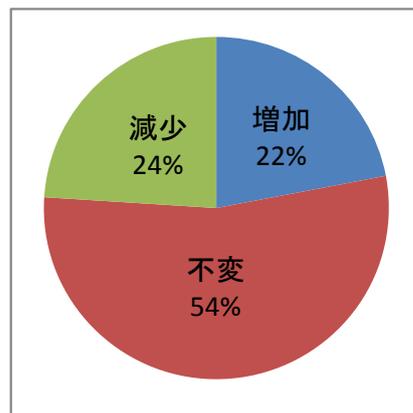
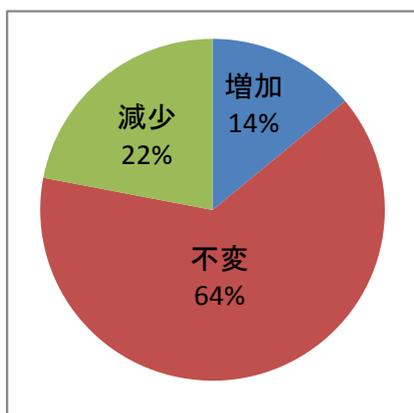
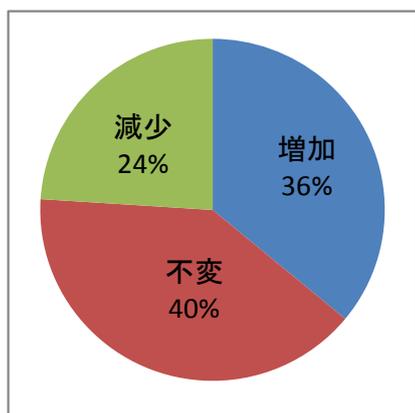
収益状況 (前年同月比)



景況感 (前年同月比)



● 2013 / 9



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2012/9	2013/8	2013/9	2012/9	2013/8	2013/9	2012/9	2013/8	2013/9
売上高	-50	-30	0	-40	10	20	-44	-6	12
収益状況	-45	-30	-5	-47	-10	-10	-46	-18	-8
景況感	-45	-30	5	-47	-3	-7	-46	-14	-2

※ ((良数値 ÷ 対象数) × 100) - ((悪数値 ÷ 対象数) × 100) = D. I 値

■ 概 況

本県9月の景況は、全業種のD I 値が、売上高+12（前年同月比+56）、収益状況-8（前年同月比+38）、景況感-2（前年同月比+44）となっており、前年同月比は全ての項目でこれまでにな改善が見られた。業種別のD I 値では製造業で、売上高±0（前年同月比+50）、収益状況は-5（前年同月比+40）、景況感+5（前年同月比+50）。非製造業では、売上高+20（前年同月比+60）、収益状況-10（前年同月比+37）、景況感-7（前年同月比+40）となった。

前月比では、製造業の売上高は30ポイント、収益状況が25ポイント、景況感は35ポイントと全ての項目で大きく改善した。非製造業では、収益状況は不変、景況感が4ポイント悪化した。売上高が10ポイントとD I 値が改善した。

情報連絡員による県内の9月の業況報告は、緊急経済対策効果による公共投資の増加や消費税率引き上げ前の駆け込み需要などを背景に景気改善の報告が多く見られた。

製造業では、緩やかな景気回復が広がっている報告がある一方、原料や燃料等の高騰による利益確保が難しいとの報告が多かった。

非製造業は、猛暑や台風等による影響で生鮮を中心に価格が高騰している報告があった。

また、2020年夏季オリンピックの東京開催やリニア中央新幹線等による県内の経済効果への期待が高まる中、資材高や労務費高騰などコスト負担増を懸念する報告も多く見られた。

■ 業界の声

情報連絡員には、景気動向の変化、現状とその背景などについて、業界または組合員全体の動向・予測（売上高・原材料等経費・資金繰りなど）についてコメントを求めた。

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	伊勢エビや鮑等の生鮮の取扱いが依然好調。全体の売上は、前年同月比114%。しかし、円安による輸入原料の高騰で利益率は低下。
食料品（洋菓子製造）	コンビニやOEM、輸出向け商品が好調。全体の売上は、前年同月比113%。今後、小麦粉等の原料の値上げが予想されるため収支面は厳しい。
食料品（菓子）	季節行事や秋の行楽シーズンに入り売上増となった。今後、原材料や包装資材が5～8%値上がりするため、利益を確保することが難しい。
繊維・同製品（織物）	OEMからの脱却を図っている企業は売上高が上昇。
木材・木製品製造	消費税による駆け込み需要の感はあるが、例年通りの忙しさである。
家具製造	消費税増税による駆け込み需要による景気回復感がある。今後、円安による資材や物価の高騰、消費税増税による売上減少により景気が後退するのではないかと懸念。
印 刷	長期低迷が続いている。
鋳 業	県の大型施設やリニア新幹線の工事等が一段落したため、今年4月からの出荷は前年比75%と低迷。今後、公共工事と東京オリンピック・リニア新幹線等に期待。

窯業・土石（砂利）	取引業者への値上げ交渉により価格が若干上がった。しかし、電気料や燃料代等の負担が大きく適正価格までには行かない。
鉄鋼・金属(1)	電気・電子・デバイス関連は、未だに回復に至っていない。
鉄鋼・金属(2)	8月以降、さらに悪化傾向にある。
一般機器	取引先の海外進出により国内の取引先の開拓を行っているが、単価の安いものが多く売上高、利益の確保に苦戦している。
電気機器	業界全体的には、景気が回復傾向にある。金型などは前年よりさらに悪化傾向にあるが、国内の産業空洞化により特殊加工や精度の高い製品などを扱う企業は繁忙である。
宝飾	東京オリンピックの好影響が早く訪れるのを期待する。

● 非製造業

卸売（塗料）	販売価格は、下落傾向にあり取引条件も悪化が一部で見られる。
卸売（紙製品）	販売金額等は上昇したが、古紙の仕入れ価格上昇により収益までは反映されていない。
小売（青果）	野菜等は高値で推移。量販店並びにスーパー等の安値販売が小売店の収益を圧迫している。
小売（食肉）	夏の猛暑の影響で畜産物の出荷量が減少。特に、牛・豚・鶏ともに昨年対比20%減。これにより価格も高値で推移し、利益が確保ができない。
小売（水産物）	売上が多少回復したが前年比を上回ることはできなかった。
小売（自動車）	新車の利益率は下がったが、その他のサービス業務(整備等)で収益を上げた。
小売（電機製品）	エアコン、冷蔵庫は依然好調。太陽光発電は、補助金制度終了への駆け込み需要増。LED照明器具は価格低下により台数は伸長しているが販売額は横ばい。
小売（事務機文具）	官公庁関係の発注量が若干増加したが、先行き不透明。
小売（石油）	9月初旬は、エジプトの政情不安とシリア情勢の緊張感が高まり、中東原油が高騰し為替も円安ドル高で推移したためガソリン、軽油等は2円程度値上がりした。中旬以降は、ロシア情勢の緩和による原油価格の下落や需要減により販売価格が2円程度値下がりした。
商店街(1)	空き店舗を活用したイベント等により来街者は増加しているが、売上増には至っていない。
商店街(2)	秋の行楽シーズンとなったが、台風等により来街者減。また、暑さが続いているため秋物の衣料品は売れ行きが悪い。
不動産取引	来春の消費税増税に伴い住宅取得減税や補助金制度等により住宅の駆け込み需要が減少。
宿泊業(1)	3連休が2度あったが最初の連休は台風の影響でキャンセルが発生した。

宿泊業(2)	秋の行楽シーズンとなり連休中は良かったが、その分平日が悪かった。また、価格競争が止まらず収益に大きな打撃を与えている。
美容業	アベノミクス効果で景気回復感があるが、高単価の施術は少なく客単価は伸び悩んでいる。
廃棄物処理(産廃系)	公共事業関連の廃棄物の収集量は変化がないが、経営の中心を占める民間企業の収集量と受注金額が悪化を辿っている。また、燃料費や人件費(人員の移動が多く、その度に有給休暇の残数を消化させている間の人件費が増大)の上昇も追い打ちをかけ小規模経営者にとっては、経営継続の正念場である。
警備業	富士山の警備は、マイカー規制があったにもかかわらず昨年対比20%の警備員の増員となった。
建設業(住宅関連)	消費税増税前の駆け込み受注増。
建設業(型枠)	2020年の東京オリンピックが決定し東北の復興や消費税増税による駆け込み需要、リニア中央新幹線や中部自動車横断道を始めとするインフラ整備などで多くの仕事が見込まれる。しかし、地元ゼネコン同士による安値受注合戦により工事単価は上がらず、円安等による建築資材の高騰や人材不足による賃金の上昇が経営を圧迫している。
建設業(鉄構)	材料価格の値上がりにもない受注価格も上昇の兆しがある。見積り引合いは首都圏を中心に増加傾向。
設備工事(電気工事)	仕事量は増えてはいるが、価格競争が続いており受注価格は減少。
設備工事(管設備)	8月の山梨県の新設住宅着工戸数は、前年同月比200戸の大幅増となり、消費税増税を見込んだ駆け込み需要となった。
運輸(タクシー)	景気の回復感はなく円安による燃料費や輸入資材の高騰等により運輸業界を取り巻く環境は大変厳しい状況にある。
運輸(バス)	8月1日から施行された法改正(貸切バスの交替運転者の配置基準)により運行内容によっては2人乗務を義務付けられることになるため、人件費が増加し経営は厳しい。